

令和元年度 第1回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

日時: 令和元年7月25日(木)

午後3時00分～午後4時30分

場所: 釧路市役所 防災庁舎5階
災害対策本部室

1. 開会

・「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」第6条第2項の規定により、
委員11名中7名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

2. 委嘱状交付

<委嘱状は机上配付>

3. 市長あいさつ

4. 副議長選任

5. 議事

(1) まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱の改定について

・事務局より【資料1】「釧路市まちひとしごと創生推進会議_設置要綱」、【資料2】「新旧対照表_推進会議
設置要綱」、【資料3】「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進体制」をもとに説明

(2) 総合戦略交付金対象事業の進捗管理について

・事務局より【資料4】「地方創生交付金における推進会議の役割」、【資料5】「H30 地方創生推進交付金
のKPIと概要」をもとに説明

委員より説明内容について質問あり

<以下、質疑応答【◎…議長 ○…委員 ●…オブザーバー ■…釧路市】>

◎ アドベンチャーツーリズムとかテーマパークによるガイドツアーだが、ブラックアウトの関係で遅れていた年度末に組成はされたという話だが、今年度ガイドツアーをやられているのか、その後回復しているのか。

■ 担当課への聞き取りによると、カムイルミナの事業が軌道に乗るまではガイドツアーには手を付けられない状況でなかなか進んでいないが、30～40本ほど予定していると聞いている。

◎ 今はカムイルミナに力を入れているけれども、立ち上がったので、今年度は順調にやっていくだろうということか。

■ そうである。

- ちなみにマリモのガイドツアーだろうか？
- マリモの方の予定も今後している。チュウレイ湾の湖の中に船をとというのも色々と研究し、環境省のスタッフとも調整をしている。
- そのことをガイドツアーとっているのか。ガイドツアー造成と言っているのはそのことか？
- それ以外にも複数色々なアドベンチャーツーリズムと言われるものの体験を今阿寒の方で考えているが、まだマリモの方はスタートしておらず、別なところで2本出来ているということ。
- 具体的に2本ってどのことを言っているか分かっているか。
- そこまでは聞いていない。

- 一番最初の、わかもの・女性の希望がかなう「しごと」づくり事業の KPI では、実績値で従業員数が 29～30 年度で約 500 人弱増えているが、具体的な企業名は言えないにしても職種の・業種的にどんなものが増えたのか？
- 具体的には押さえてなかったが、基本は経済センサスで出している統計データを基にしており、そこから暫定値という形で記載している。経済センサスのデータの公表は 5 年に 2 回のため、今は 28 年度の 7 万 112 人と、市民税の方で持っている法人事業所数の推移の割合を掛け合わせて出している数字になっている。
- この時期に従業員数が増えるというのは素晴らしいことだ。

- 同じ仕事づくり事業の中で累計で 261 名の雇用を創出できたということだが、この内訳は通年雇用・短時間労働・パート・季節といった分類は押さえているか？
- 分類に関しては創業者数の部分——30 年度でいけば 81 件のうち 57 件が創業者数ということになっており、その中の分類は聞き取りをしていた。
- いや、創業は別に短期も長期も何も関係ない。雇用の創出なので、いわゆる一般の労働者として雇用はされたということか？ それが通年の雇用・季節の雇用・短時間の労働なのかは押さえていないのか？
- そこまでは押さえていなかった。

- UIJ ターンの促進を行ったと高らかに謳っているが、これは説明会を一回や二回開催したくらいか？
- 説明会もそうだが様々な機会を通じ、例えば「くしろ 20 歳のつどい」(成人式) のところなど UIJ ターンについての PR を行ったり、釧路の企業の紹介を行った。
- 人材の確保対策を図る努力をしたということなのだろうが、この促進活動によってどの程度新たな雇用が創出されたのか。
- UIJ ターンに関しては平成 30 年度に関しては 5 人という実績になっている。
- 分かった。

- ◎ 先ほど委員の方から従業員が増えているのは大変素晴らしいのではないかという意見があり、私もそう思ったところである。
まだ釧路は人口としては減少しているが、従業員が増えているというのは子供や退職した人ではなく

実際雇用するような世帯の人達が来ているのではないかということなので、まさに釧路市の施策がきいてくるとしたらここだと思う。

そのため、今委員が言ったような何かしらの調査方法があればと思う。何処の企業なのか、どういう業種なのかとか。ここところが今回まち・ひと・しごとの施策で一番重要なところだと思うので、私も非常に心配だ。それらが今後分かれば今後フォローしていただければと思う。

- 同じことをかぶせるようで申し訳ないが、KPIの数値だけ追うのも確かにいいが、何故その数字が生まれてきたのかというのをきちんと分析しないと、今後打つ手が見えてこない。

今話を聞いていると、その部分をもう少し力を入れた方がいいと思う。

表の数値だけではなくその裏側に隠れている数字を細かく分析して初めて見えてくるものがあるのではないかと思うので、その点も数字を出した時に分析するとよりよいものができると思う。

先生と同じことを申し上げた。可能であれば是非そういった分析をお願いしたい。

(3) 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- ・事務局より【資料6】「まち・ひと・しごと創生基本方針2019(概要)」、【資料7】「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引きのポイント」、【資料8】「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」、【資料9】「地方版総合戦略策定のための手引き新旧対照表」、【資料10】「第2期総合戦略の策定イメージ」、【資料11】「第2期総合戦略策定スケジュール」をもとに説明

- 全体的なことで違和感を感じていたところがあったが、今最後の説明で何となくイメージはついたが、今回KPIやまち・ひと・しごと創生の一連の活動の中で、色々施策があつて、目標値があつて、実績があつて、その実績に対して活動がどうだったかということに対して、毎回意見を求められている状況がある。

目標値が適切だったのかとか、実績値が、もう少し細かく見ていく必要があるのではないかという指摘がある中で、割ともやっとした数字に対して、もやっとした実績値があるというのが傾向としてある。そうなる何を質問して、何を意見したらいいのかがわかりにくくなる。資料4の交付金のところで、今年で4年目から5年目に入るところだが、釧路市の交付金ということで1年目が1億9,570万円、2年目が7千万円くらい、大きいお金が国から出ている、正直に言うと市としては、まち・ひと・しごと創生というプロジェクト会議を行う。それに伴って様々な施策を行う。その施策に対して、予算がついた。予算が消化されたということが目的化して、では本当にその施策をすることによって市が目指すべき釧路に近づけたのかというのが、市民からするとそれが聞きたいことなのだが、行政側としては、しっかりと予算がついて、しっかりと予算が執行されて、場合によってはうまくいかなかったこともあるが、ちゃんと国から示された指針通り、ルール通りにそつなくこなせたという感じに終わってしまっている感があつて、もったいないという感じを受けている。

ただ、それがだめだというわけではなくて、当然市のルールに沿ってやって行かなくては予算がつかないというのがあつて、それに基づいてやっていくの大事なことだとは思っているので、それはしっかり進めつつ、実際には釧路市の未来に対して危機感を持っていたりとか、これから人口減少していくという中で、釧路市が本当に、私たちの子ども達の世代が明るく楽しく生きていけるまちになっているのかということに対しては、私自身も子育て世代の親として危機感を持っている。

私は民間の一企業者の立場で中小企業のグループの団体を代表して参加させていただいているが、正直私たち民間側もどちらかというと、釧路の特色として、行政から補助金とつただとか、交付金とつただとか、

行政に頼りきっているところがあったりという側面が強いと感じている。

本来は民間はもっと民間として自立をして、民間が稼いで、しっかり民間が稼いだお金を、自分のビジネスや新しい事業に再投資していく。それが経済を活性化していく上で、本来必要なことであるが、景気が悪いからとか苦しいから、もっと行政に対し交付金がほしい、交付金ついた、補助金ついた。それで喜んでいる。

これを活用してどう稼ぐんだというところが必要である。なのでこれは民間にも問題がある。民間もそういう姿勢。そこに行政と同じ姿勢でやるとお互いが悪い感じでべったり共有していて、釧路の活性化を妨げていると感じている。

行政としても同じお金を使うのであれば、ぜひ民間の自立を促すようなお金の使い方として、もっと稼ぐように言っていいと思うし、民間側ももっともっと自分たちの技術を頑張るので、そこに行政の後押しをいただいて、もっと大きくなるようなビジネスを出来たらいいなど、お互いにプラスになるような関係性を築けた方が、未来は明るいのかなと感じる。だから具体的に何をやるんだということになるが、先ほどのキーワードで域内連関というキーワードがあって、いろいろ関係箇所と連携していこうというのがあって、色々な言葉の定義があったり、色々な考え方があるとは思いますが、単純に言うともっと公民連携をしていくという感じで、行政にちゃんとやってほしいとか行政の仕事だからという感じで、行政に頼りきりで投げてしまうのではなく、民間が民間だけでやるのでもなく、行政と民間がそれぞれ得意分野だったり、持ち味があって、それがお互いに協力していくというシンプルな形で実際にそういう形での様々な取り組みというのが、各地域であって、今までは行政としてこれは使えないといったものを、じゃあそれを民間に開放して、民間に使っていいよと、そこで民間が民間のアイデアで自由に稼いでいただいているというような、規制緩和的なところであったりとか、今までルールだと駄目だったが、それは民間でやってもらっていいよとか、あるいは今まで税金でやっていたところを民間でやってもらうとか、そういったアプローチでできることがもっとあるのかなと思う。

それに伴って釧路市の活性化につながる可能性があるのかなと感じた。第2期の総合戦略であったりとか、まち・ひと・しごとの新しい次の策定が始まるということなので、ぜひ1回目のプランニングの良かった点がたくさんあると思うが、ダメな点を直してくれとかじゃなくて、より良い形で作っていくためにも、そういった視点をぜひ盛り込んでいただいて、釧路市の民間の力と行政の力がいい形でかみ合うようなプランにつながるとういなど感じた。

- まさに、域内連関というものがまちづくり基本構想の目指すべきまちづくりを実現するための考え方であって、それが総合戦略においても非常に重要な考え方であるというふうに私達も認識しておりますので、かつて都市経営戦略プランでは域内循環という取り組みをやっていて、そちらのほうも行政や民間が一体となって、釧路の地場産品を市内で消費させていこうとか、インターネットでものを買うのではなくて、市内の業者から買おうとか、そういう取り組みがあって、そういう経済活動に留まらず、色々な分野、例えば防災であったりとか、その他色々な分野にもそのような一体となった取り組みをしていこうと、それがまちの活力を生んで、しいては総合戦略、人口減少対策にもつながっていくものだと、私共も感じているので、その辺は力を入れてやっていきたいと思っている。それからKPIのもやっとしたというお話があったが、私共もその辺に関しては、1期目の策定の時の課題であると感じており、新しい総合戦略を作る際には、その辺を意識した形でKPIのほうを設定していきたいと考えている。
- 第2期の総合戦略をこれから作るという中であって、気にしておいていただきたいのは、まち・ひと・しごとというけれど、語呂がいいからそうなっているのかと思うが、まちに元気があるうちはその順番でいいのだろうが、今の釧路をイメージするとその逆で、しごと・ひと・まちかなと。まず、若者が就きたくなるような仕事の創出と

いうのが必要だと思う。

それによって人が集まってくる。そして、まちが形成されて内需が生まれるというような流れだと思うので、そちらのほうを意識していただきたいのと、域内循環は非常に大事なことだと思うが、域内循環だけだと人口が減り続けているから、これはジリ貧になっていくというのは間違いのないことである。

それではどうしたらいいんだというと、外貨を入れる努力。それを明確にしていきたいのと合わせて、その外貨を入れる努力の中には、利益効率というか、利益率の高い新たな仕事。非常に難しいが、そういったことを踏まえながら、2期の総合戦略づくりをしてもらいたい。

- まさにそのとおりで、これまでも市長も常に首尾一貫で言っているが、人口減少対策はやはり経済活性化である。経済活性化で雇用を創出して、若い人、親になる世代を確保するというのが、一番の目的になっている。まちづくり基本構想の重点戦略でも、先ほど少し触れたが経済活性化と人材育成と都市機能向上。その中でも経済活性化というのを主軸にして、人材育成は経済をしっかり支えるための人材育成であったり、都市機能向上であったりということがあるので、おっしゃるとおり、しごと・ひと・まちというようなことで、我々もそこに重点を置いてやっていきたいと考えている。

- 私はこの委員を途中から引き受けていて、引き受けたときに何が一番自分の中で苦労したかということ、それこそKPIとは何なのかということ。毎回検証していく中で検証の仕方の数字は出ているので数字はわかるが、それを意味するところ、数字しかわからないと中身のことはわからない。それに最初は本当に苦労したところがある。次に向かってはKPIという数字も大事だが、数字の間にあるものというのをできるだけ市の方には表していただきたいと思う。

今日そういったことを質問した方が多くて、最初の仕事の部分なんかは、UIJターンが何人だったのかわからないのかと思ったら、5人だったということがわかって、私のように企業で活動していると確かに釧路は今なかなか状況が厳しいところはあるが、そんな中でも各企業が将来につなげていくためにも、雇用を確保していかななくてはいけない、景気が悪くて雇用ができないのではなくて、雇用を確保していきたいのに、確保される人がいない。

だからUIJターンにもっと力を入れて、釧路に就職していただける人を増やしていただきたいと思う。そういう意味ではまち・ひと・しごとの中のひとの部分。ニーズがないわけじゃないのに、そのニーズにひとの部分で応えられていないというのが実際だと思う。

東京や札幌のような求心力のあるところが人が足りないの、地方の人材を吸い取ってしまっているという実態があるかと思うが、そういう意味で人を確保していかなければ、仕事をやりたくてもできないというようなマイナスの連鎖になってしまうのではないかという危惧を持っている。

その中で今回釧路市のまちづくり基本構想、私も策定の中に入っていたが、この時も話の中では経済の部分の人、生活する意味での人、育っていく小学生・中学生という意味の、育っていく人材。そういう人づくりが大事だというのがかなりこの中に出てきたように記憶している。

だから次の第2期を策定することに当たっては、このまちづくり基本構想に対応した計画と書いてあるので、前回とはそういう意味では少し進化した、新しい計画という部分を打ち出していただければと思う。

- UIJターンのほうはしっかり取り組んでいきたいと思う。実際今年度の新たな取り組みとして、交付金の事業になるが、道と国と連携して、東京の人材を・・・。
- 商工会議所を通じて来たが期間が短すぎる。小さい企業なんかはじっくり取り組まないといけない内容だったのではないかと思う。そういうところが大事なんだと思う。

■ 担当課の方に伝えておく。

○ 仕事という意味でずっと市と協力しながら、事業を受託させていただいている身として一つ。例えば女性の就労に関してやっているが、平成30年度の女性の就労に関して、この中の数字の中で、14名のうち12名というのが女性の就労に関する数字だと思う。起業に関しては私のところから4名が起業している。そこがすごく重要で先ほど正社員が何人かとか、どういう働き方かという質問があったかと思うが、例えばハローワークの数字の取り方って、若者だとか、いわゆる男性の働き方、一般の方の働き方は正社員の数字を見る。

いわゆる主婦上がりとか女性のハローワーカー、マザーズコーナーというコーナーがあるが、その女性の働き方に関しては正社員だろうが、パートだろうが、臨時職員だろうが全部数字の1がたつ。そういう調べ方というのは実際国として行われているので、はっきりとしたここでの数字は出しづらいのかなとは思いますが、ただ市とのやり取りの中で細かいことを6年間くらいやらせていただいている中で、こういった取り組みをやって、こんな数字には見えない動きというのが出てきていて、それを市の担当の方に伝えていても、結局数字だけを頭に入れてしまったという対応だったのが、全然変わってきたなっていうのがすごく感じているところである。

担当者の対応というのがあるのかもしれないが、対応全体がすごく熱心になってきたとすごく感じている。そこは市の取り組みも、ある意味必死になってやっているのかなと感じるのと、今日は振興局の地域創生部長もいらっしゃるが、1個の小さな会社は市の事業と例えば道の事業、釧路振興局だとかそういった事業を、例えば、合同企業説明会があるとか、バスツアーがあるとかがあったら、実際客の取り合いをしてしまうという現状がある。

全然事業が違って、でも客にとってはこれがどこの主催なのか関係ないというか、良い内容だったらいいのだが、主催者側は客の取り合いをしてしまう部分が、非常に見え隠れしてしまうので、だったら民間がやって、行政や自治体の見えにくい壁みたいなのを、うちがやることで結構効果が出ている。

市のほうに数字が上がっていない部分でも、例えば振興局のほうでやっていたりとか、でもそれも市民なので、そういう連携をなかなか行政同士でやるのはもしかしたら難しいことがあるのかもしれない。でもそれが先ほどおっしゃったように民間が入ることによって、うまく連携できることがあると思うので、いい意味で民間を利用していただいて、民間もいい意味で行政を利用するというか、そういったこともありかなと思う。

■ 色々ご意見頂戴したが、今日のご説明したい部分でいくと時間的な流れで説明すると、まち・ひと・しごと総合戦略第1期が平成27年に出来たときに、当時KPI含めて、分野としては幅広いような出来上がりになっていたという中で、そのあと釧路市まちづくり基本構想ということで、これが今釧路市が向かっていくべき大事な方向性ということで議論いただいて、基本構想が出来上がった。

その基本構想の中に、地域経済の活性化と、地域経済を担う人材の育成と、経済活動を支える都市機能向上、これが釧路市にとって重点戦略だということで、こういった柱を作っていただいたところであるので、ここを強く意識しながら、この第2期の総合戦略の施策なり目標なりというのを構築してまいりたい。

そのための意見を様々これからいただきながらやっていきたいと思っている。先ほどからご指摘のあったKPIというところで、そういう目的感をしっかり持った中で、KPIを設定していき、そしてまたKPIの単なる数字を入れるのではなくて、数字の意味するところとか、どういうところが目標に向かって進んでいるかということも含めてよく勉強させてもらいながら、策定に頑張っていきたいと思うので、またご協力をいただきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

◎ よろしいか。では振興局の地域創生部長が出席されているので、一言を。

● 第2期総合戦略については、先ほどもご紹介があったとおり、国の方でも策定している。都道府県、市町村で

も次期戦略を策定するという方向になっており、道においても鈴木知事の方から道議会のほうで、次期戦略を策定することを表明している。現在は現状の道の総合戦略の検証と課題抽出のための、ワーキンググループを開催しており、ちょうど本日3回目が開催されていると聞いている。

今後策定に向けた作業について、9月頃に骨子を策定して、11月に素案を策定し、市町村や団体の意見照会、パブリックコメントを実施して、スケジュールについては来年3月に戦略決定といったことで、道の方では進める予定となっている。この場を借りて情報提供させていただいた。

もう一点。先ほど地方創生の交付金事業の進捗管理ということで、資料5のところで説明があったが、その中で北海道くしろ地域東京特別区交流推進事業、この事業については、北海道と管内8市町村、東京荒川区との広域連携の取り組みであるが、先ほど釧路市の宿泊客延べ数についてはKPI達成という話があったが、事業全体のKPIとして、項目の一つに釧路地域の知名度という項目があり、これについては毎年、先ほどチラシも配付されていたが、秋の味覚市が昨年11月に東京の日暮里駅前で、物産展と観光PRを開催し、その中で来場者アンケートを実施している。大体115名から回答をいただいているが、そのアンケートの中で釧路という地名を知っているかといった質問があり、目標50%に対し結果が32%という結果であった。来場して初めて知ったというのが約58%ということで、我々道民というか、私も生まれも育ちも北海道だが、道民の方としては釧路というのはもっと知られているのではないかと思っているが、実際は、このアンケートを前の年も実施して、同じ32%であった。思っているよりも知られていないというのが正直な感想であった。

なかなか、知名度や認知度を上げるというのは正直簡単にはいかないと思っていて、先ほどユーチューブで動画が850万再生という紹介もあったが、なかなか簡単にはいかないというのが正直なところであり、やはり交流人口を増やすためにも釧路の知名度を上げていくというのは必要な取り組みだと思っている。

当然、道、振興局も取り組みを進めていき、釧路市や地域全体、民間の方々も協力しながら少しでも釧路地域の認知度向上のための取り組みを粘り強く続けていく必要があると思っている。

◎それではすべての議事が終了したので、振興を事務局にお返しする。

6. 閉会

(了)